

令和3年度 第2回 男女平等推進市民会議 会議要録

日 時：令和3年8月2日（月）18:30～20:00

会 場：WEB会議（Zoom）により開催

参加者：名取はにわ会長・本田純副会長・有賀千歳委員・澤田さなえ委員・林恭子委員
岩崎明子委員・山本桂子委員・功刀隆委員

事務局：生活文化課長・男女共同参画係長・男女共同参画係員

○議題

- ・議題（1）東久留米市第3次男女平等推進プランの進捗状況評価について（令和2年度事業）

会 長：まず各ワーキンググループ（以下WG）のリーダーから総括コメントを頂き、そのあとで各委員からご意見やご感想などをお願いしたい。それでは、WG1から始めたい。WG1では、担当課評価がBやCと評価したのに対し、WGで高く評価したものについてコメントしたい。まず通し番号4について、公共調達は生活文化課が担当課となっているが、もっと適した課にも関わってもらい、情報収集などを行って実現に向けて報告して頂きたい。次に通し番号6つについては、数値目標の導入を高く評価した。次に通し番号13について、児童発達支援センターの開設により相談支援体制が充実したことを評価した。ただし、相談員の減少が心配でもあるとコメントしている。次に通し番号17については、取り組みの好事例や市民への提供方法の工夫という宿題を出した。次に通し番号19については、情報提供の工夫をお願いしている。次に通し番号20番については、庁内の女性の登用は成果が見えないので、生活文化課というより職員課に力を入れていただきたいと思っている。最後に通し番号24については、様々なセミナーが行われているが、アンケートなどの工夫をお願いしたい。

委 員：WG2では、全般的に昨年度より評価が上がっていると感じる。ただ、学校教育現場の教育方針については、具体的な様子が分からない部分があり、評価が分かれた項目がある。それについては、ヒアリングや再度の説明によって再評価を行った。全体的には随分進んだなという感想である。

事 務 局：WG3については、WGリーダーよりコメントを預かっているので代読したい。今回の評価は、メンバーにより評価にばらつきがあり、低い評価と高い評価の間をとることが多くなったが、それでよかったのかとの思いがある。コロナ禍における活動ということ考えると、どうしても評価を高くしてあげたいとの気持ちが働いた。シビアに考えると、ここ数年の活動の影響が積み重なってきているはずで、その何年分かの成果については数値目標等に反映されてくるも

のと考えている。そういう点では数値目標は大切だと感じる。2020年は、コロナ禍の中、今までと違ったやり方でイベントを実施せざるを得なかったと思うが、そのことによって新しい人間関係ができたのではないか。パソコンの画面の中だからこそ出会えたり、話ができたりする可能性が見えてきたのではないかと思う。

会長：各WGのリーダーから総括コメントを頂いたが、参加された委員の方々もご意見、ご感想等あればお願いしたい。

委員：通し番号35で、コロナ禍で妊産婦の孤立を防ぎ支えるという着眼点は重要だと感じた。また、通し番号42で、加害者への支援も視野に入れた研修を期待したいという点も重要だと感じた。DV問題等の解決には加害者のための教育や見つけなおしが重要である。次に通し番号48の記載について、「性別役割分担意識の浸透」は「性別役割分担意識解消の浸透」ではないか。次に通し番号60で、「男女の役割分担が明確になっていないことが一因」という部分は誤解を招きやすいのではないかと思う。

事務局：通し番号48については、「性別役割分担意識解消の浸透」に修正したい。

会長：通し番号60の「役割分担」について、WG2ではどのような趣旨だったか説明をお願いしたい。

委員：男性ばかりだと女性の視点が弱くなってしまうので、全体として推進していくためには女性の視点を持った人が必要だという意味で、そのような役割があるのではないかということだった。たしかに表現が誤解を受けやすい部分もあると思う。

会長：では講評・提言の前の一文を削除した方がよいと思うがよろしいか。

委員：それでよいと思う。最後に一つ質問だが、通し番号67で「放課後の公園で中学生の男女が～」という記述があるが、まだ中学校は男女混合名簿になってないと思うがどうか。

会長：中学校への男女混合名簿の導入についてはどのようになっているか。

事務局：WGでは、一部の中学校に男女混合名簿が導入されているようなことであったが、導入状況については指導室に確認したい。

委員：公園で遊ぶ姿が見られたというのも名簿の成果かどうかは分からないが、低学年・中学年の子たちがまるで保育園を卒業した子たちのように仲よく遊んでいて、幼稚園を卒業した子たちは男女別に遊ぶことが多いので珍しいなと思った次第である。

会長：では、確認の結果、導入が一部であってもこの部分は生かして、「ヒアリングで、一部の学校で男女混合名簿が導入された成果」としてよいと思う。全校が導入ということであれば、文章はそのまま。

会長：それでは、ヒアリングの実施について決めたいと思うが、ご意見があればどうぞ。

- 委員：通し番号54の指導室と57の障害福祉課を考えている。特に学校教育の部分で生の声を聴きたいと思う。キャリア教育といっても、学校教育の中では、教科の中で必要に応じて行っていくという形で、指導する教師の方もそのことを意識していないと年間指導計画に組めない。キャリア教育への持って行き方は難しいものである。もし先生や生徒たちの感想を聞くことができれば啓発の指針にもなるのかなと思う。本当は授業をやっているところを見せてもらうのがよいが、現状では厳しいと思う。
- 会長：今後の要望ということで事務局にお願いしたい。それでは、続いて障害福祉課のヒアリングについて説明をお願いしたい。
- 委員：就労継続していくための定着支援の充実や地域での就労先の新規開拓など具体的にどうなっているか実態を知りたいと思う。
- 会長：これについては、障害福祉課にヒアリングをさせて頂きたい。
- 委員：子育て支援課に関して、保育園の名簿は男女混合になっているが幼稚園はどうなっているかという質問に対して、東久留米市には公立幼稚園は無いので私立幼稚園がどのようになっているかは把握してないということだった。幼稚園の段階での男女混合名簿というのは影響が大きいと思われるので、市が私立幼稚園に対して影響を及ぼせないのかなというところが気になった。
- 会長：それでは、現状と今後の見通しを聞きたいということではよいか。
- 委員：お願いしたい。
- 委員：質問があるのだが、先ほどの「キャリア教育」とはどういうものか。
- 委員：一言でいうと、子どものうちから将来を見据えて自分の行動を見直すきっかけになるような教育のことだと思う。
- 委員：小学校ではキャリアパスポートというものを作っている。宿題のような形でやっていて、その後の具体的指導があるようなものではなかった。性別役割分担意識など保護者の影響も受けることから、丁寧なフォローが必要だと思うが、そういうところは全く見えなかった。今後どうなるか気になるころではある。
- 委員：私は、市内中学校7校で、キャリア教育支援ということで、社労士の立場から出前授業をしている。その中で、働くこと、法律の話、ジェンダー的なものを取り入れてやっている。また、青少協からの要望で小中学校向けの模擬講義を予定しているが、その中では、小学生向けに年金の計算を教えたり、中学3年生向けにブラックバイト、働く生き甲斐などを伝えたりしている。西中学校では特別支援クラスに関して障害年金の話をしたり、相談会を行ったりしている。
- 委員：ぜひキャリア教育の様子を知りたいと思う。
- 会長：このような話が教育委員会の方に通っているかどうか指導室の方にも言っておいてほしい。それでは、以上の2課についてヒアリングをお願いしたい。
- 事務局：事務局より評価について、2点ほど確認させていただきたい。まず、通し番号11の講評・提言の文中「利用者支援員などの多様な支援の周知」について担

当課に確認したところ、「利用者支援員が窓口や電話で、保護者が求める保育施設の入所や市内の保育サービスについて案内を行っている。利用者支援事業については、子育てだよりやチラシ、パンフレット等の配架、市のホームページへの掲載などで周知をしている。」ということであった。この聞き取り結果で評価等変わることがあるか確認をお願いしたい。

会長：評価は変わらないが、保護者向けの周知は既にやっているということなので、「利用者支援員などの～」の一文は削除してよいだろうか。

委員：よいと思う。

事務局：次に通し番号50の評価について、全体評価A、取組状況B、課題把握A、次年度目標Aとなっているが、事務局で見直した結果、課題把握がA評価2人とC評価1人で分かれており、改めてWGとしての評価を確認したい。

委員：Bが妥当ではないかと思う。そうすると全体評価もBとなると思う。

委員：それでよいと思う。

会長：それでは、そのように修正をお願いしたい。次に答申の方向性をお諮りしたい。特に強調したいところがあればご意見ををお願いしたい。

委員：どうしても紙ベースの資料だけでは状況を把握しにくい部分もあり、評価が分かれたりもするが、全体としては着実に進んでいると感じられるので、そこは入れて欲しい。

委員：評価の積み重ねが重要である。良い評価を受けた部署が次の年もよい評価を積み重ね、その成果を見える形で次に伝えていかなければならない段階にきていると思う。

会長：事務局として意見があればお願いしたい。

事務局：やはり数値目標が入っていることが評価のやりやすさにもつながることなので、そのあたりの意見も入れるとよいのではないか。

会長：それから庁内の女性管理職の登用も進んでいないようで、そのあたりも強調したいと思う。また、審議会における女性比率が非常に低いことも言わなければならない。特に防災会議に占める女性比率は、国も力を入れているところであるが、本市では少ない。審議会ごとの女性比率、特に防災会議委員の女性比率などの数値をぜひ示してほしい。

委員：教育委員会や指導室における女性比率は出せるのだろうか。

会長：それは出せると思うし、特に問題なのは校長・副校長の女性比率だと思う。ぜひ数値として出していただきたい。

委員：旭川や大津のいじめ事件などで、教育委員会がどうしても隠蔽してしまうという問題で、ジェンダーに関する本を読んで「片働き世帯の男性は、一家の大黒柱であるためにイエスマンになりがちで、情報化の時代に不正行為は遠からず明るみに出て、結局窮地に陥る。」というような話があった。もしかして教育委員会がボーイズネットワークであるがために、どうしても無かったことに

しようとする方向に行ってしまうのかと思ったので、教育委員会において男女の比率がアップすればよいかなと思う。

会 長：後で何か気が付いた方は事務局に8月13日までをお願いしたい。

・議題（2）「東久留米市男女平等・共同参画に関するアンケート調査」について

事 務 局：前回の会議で、平成28年度に実施したアンケート調査についてご意見をいただき、資料4にまとめたので確認をお願いしたい。

会 長：ご意見等あればお願いしたい。

委 員：問21-3について、選択肢はすべて相談窓口ということでよいか。

事 務 局：すべて配偶者暴力を相談できる窓口である。

委 員：とてもよいことだと思う。問いに選択しすべてが相談窓口であることを記載した方がよいと思う。

事 務 局：そのようにしたい。

委 員：性別を問うところで、選択肢3の「その他」に括弧がついているが、括弧の中に何を入れるのかと考えると、無い方がよいのではないかと思ったのだが、みなさんのご意見を伺いたい。

会 長：この点についてご意見があればお願いしたい。

委 員：そもそも性別を聞くことは必要か。

会 長：このような調査はジェンダー統計と言って、男性と女性で考え方が違うことを把握しないといけないということで、第5次男女共同参画基本計画にも明記されている。

会 長：違和感のある方が一人でもいれば括弧は外すということにしたいと思う。

事 務 局：そのようにしたい。

委 員：問21にも自由記述欄を作って、生活の中で感じた男女不平等な出来事なども記入出来たらと思った。生活の中に隠れた男女差別的言動を拾っていくことが男女共同参画社会の実現に必要なのではないかと思った次第である。

会 長：この設問は配偶者暴力に特化したところなので、日常的な男女差別的な言動というのはちょっと合わないのではないか。

・議題（3）その他について

事 務 局：次回会議は担当課のヒアリングを予定している。時期は9月上旬を予定している。

○次回会議（後日調整）